

講演者

大木 理恵子（おおき りえこ）

国立がん研究センター研究所 基礎腫瘍学ユニット。

1997年東京大学理学部博士課程修了。

東京大学医学部，谷口維紹教授（p53標的遺伝子NoxaとReprimoの同定），東京工業大学，石川冬木教授（テロメア複製機構の研究）のもとでポスドクをつとめ，2002年より国立がん研究センター，田矢洋一部長のもとでp53研究を進める。2011年より，同研究所にて独立PIとして研究室を率いている。p53研究を通じて，新しいがん化制御経路を明らかにしたいと考え，研究を行っている。

『大木理恵子. 古くても。まだまだ新しい，最も有名ながん抑制遺伝子p53. 2017. 実験医学, vol.35, no.14, p.2322-2328』より引用

主な日本語論文・記事

- ① 富永 航平, 陳 よ, 大木 理恵子. 【膵神経内分泌腫瘍update】膵神経内分泌腫瘍のがん遺伝子研究 PHLDA3は膵神経内分泌腫瘍の運命を決定する. 2018. 臨床消化器内科, vol.33, no.9, p.1099-1109.
- ② 大木理恵子.古くても，まだまだ新しい最も有名ながん抑制遺伝子p53. 2017. 実験医学, vol.35, no.14, p.2322-2328.
- ③ 山口 陽子(国立がん研究センター研究所 難治がん研究分野大木グループ), 齊藤 梢, 陳 よ, 大木 理恵子.がん分子標的・個別化治療の最前線 がんゲノム解析の治療への応用 新規がん抑制遺伝子PHLDA3によるAkt経路の制御機構と治療への展開 膵神経内分泌腫瘍の個別化医療開発をめざして. 2014. 実験医学, vol.32, no.12, p.1961-1969.
- ④ 大木 理恵子, 川瀬 竜也. 【細胞死か腫瘍化かの選択】 PHLDA3は新規Akt抑制因子であり癌化を抑制する因子である. 2010. 生体の科学, vol.61, no.6, p.560-567.
- ⑤ 大木 理恵子, 石川 冬木. 【細胞周期と癌の制御】 癌化,細胞の不死化とテロメラーゼ. 1999. Molecular Medicine, vol.36, no.11, p.1316-1323